

社会福祉法人 友愛十字会

ゆああい

題字 初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

2017

3・31

No.44



平成28年10月2日 友愛ふれあい祭り 世田谷施設中庭にて

主 な 記 事

○初代総裁 三笠宮崇仁親王殿下思い出写真館

○初代総裁 三笠宮崇仁親王殿下を偲んで

○社会福祉法人改革に思う

○友愛ホーム創設60周年

○施設紹介

友愛園 砧介護保険サービス

港区立障害保健福祉センター みなとワークアクティ

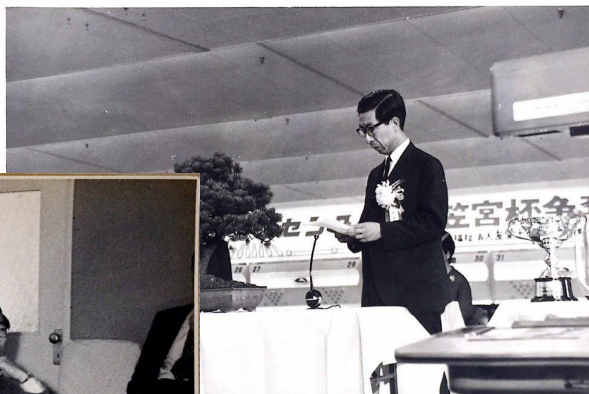
東京聴覚障害者支援センター 友愛荘

参 与 石井 晃

理 事 長 小林 和弘

養護部長 小泉 貴宏

初代総裁
三笠宮崇仁親王殿下
思い出写真館



チャリティーボウリング大会



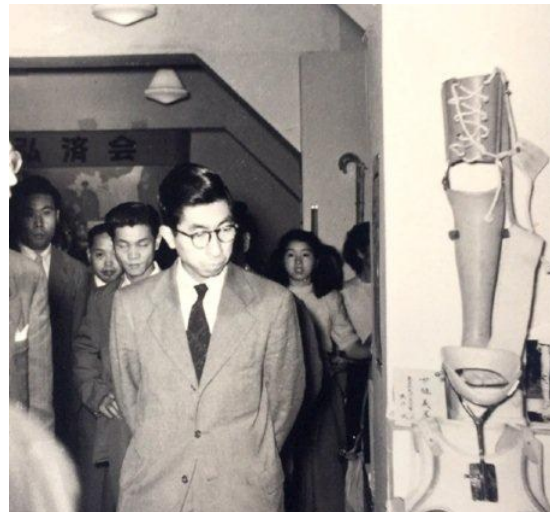
ハワイ支部の方々と



理事会にご臨席なされた三笠宮崇仁親王殿下



創立20周年記念式典



福祉展

初代総裁

三笠宮崇仁親王殿下を偲んで

社会福祉法人友愛十字会
参与 石井 晃

友愛十字会は、第二次世界大戦後、生活に困窮している傷痍軍人を始め、多くの身体に障害のある人達の更生を援護するために、ハワイ在留邦人の方々からの温かい寄付金を基金にして、昭和25年9月に財団法人（現在は社会福祉法人）として設立されました。

三笠宮崇仁親王殿下には、法人創成期の厳しい時期に初代総裁としてご教導賜りました。大恩ある殿下が、平成28年10月27日に100歳でご薨去されました。ここに深い感謝の念とともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

当法人の記念誌資料等で主な御事績を掲げ、御遺徳をお偲び申し上げます。

初代総裁御就任

昭和26年3月、名誉賛助員に御推戴申し上げ、次いで昭和28年11月に初代総裁に御就任賜って参りました。当法人の理事会には毎回ご臨席賜ったことは、理事会の議事録と御写真で窺うことができます。

総裁として諸行事等に御臨席

○多くの人々が愛好するボウリングを通して身体障害者へのご理解とご支援を頂くことを目的に、三笠宮杯をご下賜頂き、昭和42年より三笠宮杯争奪チャリティーボウリング大会（現在も宮様牌チャリティーボウリング大会と改称して継続されています）を開催いたしております。総裁殿下には御退任まで毎回ご臨席賜っていました。

○創立20周年を迎え、世田谷更生館本館の竣工式を兼ねて、昭和45年9月5日に総裁殿下を始め、ハワイ支部関係者27名を含めた多く

の方々のお出席を得て記念式典を挙行しました。総裁殿下にはお言葉を賜っています。

○平成12年11月27日には、創立50周年記念式典を新宿の朝日生命ホールで挙行了しました。当日は、初代総裁三笠宮崇仁親王同妃両殿下ならびに第二代総裁寛仁親王同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、当法人役員、入所者、来賓など60名が参加して盛大に開催することができました。

初代総裁には設立の経緯などを

述べられた後、「法人が50年間続いているのは嬉しいことです。今後ますますの発展を祈ります」とのお言葉を頂戴いたしました。

私は当時、



初代総裁 三笠宮崇仁親王殿下

常務理事として「法人50年のあゆみ」をスライドを使って説明する榮に浴し、良い時期に法人に在籍していたことを大変幸運に感じたものです。

昭和49年7月26日付で中近東文化センター総裁のお立場にご専念なされるため、当法人総裁を御退任になり、後事を御長男の寛仁親王殿下に託されました。その後は寛仁親王殿下がご薨去までの38年間、総裁をお務め頂きました。

社会福祉法人改革に思う

社会福祉法人友愛十字会

理事長 小林 和弘

昨年3月31日に成立した社会福祉法の改正に基づき、社会福祉法人制度が大きく見直され、この4月1日から本格的に施行、実施されます。なぜ、今回の改正が行われることになったのかについては、既にいろいろなところで解説や説明が行われていますのでここでは繰り返しません。背景となった社会福祉法人や法人制度に対する批判については一部違和感を持ったところはありませんが、社会福祉法人関係者としてこのような議論が巻き起こったこと自体をしっかりと受け止めねばならないと思います。

我々社会福祉関係者は世の中の役に立つ仕事をしているという思いから、こちらからとやかく言わなくても周りはわかってくれるだ

ろう、と思いがちです。また、宣伝活動も決まってしまうことはありません。自らの存在価値や社会的使命を積極的に世間にわかるような形で発信し続けていたのかについては、今回の見直し議論が各方面で盛り上がってしまったことへの大いなる反省材料として自覚する必要があるのではないかと考えています。

その意味で、今回の見直しの一つである事業運営の透明性の向上、情報公開の更なる推進は、むしろ積極的に自らの状況を開示し、情報を提供することにより、その果たしている役割や存在している理由を理解してもらう良い機会ととらえるべきではないでしょうか。社会福祉法人にとっても広報戦略は非常に重要なものと認識しなければなりません。

また、地域における公益的な取り組みを実施する責務の法定化については、地域において、住民の方々の理解と協力無くしては施設

や事業の円滑な推進は図れないことは当然のことであり、このためにもこれまで様々な取り組みを行ってきていますが、今後は法律上の責務として一層の自覚をもつて取り組む必要があると考えています。ただ、地域公益事業というが大掛かりな仕組みを想像しがちですが、地域で様々な福祉ニーズを抱えて生活している方々へのさりげない、何気ない支援も含めて幅広く考えるべきものだと思います。

さらに、経営組織のガバナンスの強化という観点からの理事会・評議員会の役割、位置づけの見直し等が行われましたが、社会福祉法人運営にとって大きな変更となりました。すなわち評議員会は従来の任意設置の諮問機能的な位置づけから法人運営の重要事項を議決する機関として必置することとされ、理事会は法人業務の執行機関と整理されました。評議員会がいわば理事会の上位機関として位

置付けられたことになります。このため理事・監事の任免は従来どおり評議員会で行う一方、評議員の任免は理事会で行うことになっていったこれまでのルールが改められ、理事会とは別のところで任免を行う手続きが必要とされることになりました。友愛十字会においても多くの他の法人と同様、評議員選任・解任委員会を新たに設置することとし、この4月から就任いただく評議員の選任を1月24日に終えたところです。実質的には今年6月の定時評議員会から動き出すこととなりますが、新しい評議員の皆様方にはこれからの友愛十字会の更なる発展に向けて大きな役割を果たしていただくことを心から期待しております。

社会福祉法人制度の見直しを契機に、より良い法人、施設運営を実現できるよう役職員一同心を一つにして取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

友愛ホーム創設60周年

養護部長 小泉 貴宏

友愛十字会で最も歴史のある施設であり、昭和31年12月24日に生活保護法に基づく養老施設として認可を受けた友愛ホームは、昨年、開設から60年を迎えました。

昭和38年の老人福祉法制定に伴い友愛ホームは養護老人ホームとなり、施設の建て替えや幾度かの定員変更を経て、平成4年に現在の定員70名の施設になっています。

介護を要することではなく環境上及び経済的な理由により居宅での生活が困難であることが入所の要件になっている友愛ホームにおいて、ご利用者の皆様は、様々な支援の提供を受けながらも自立した生活を送って来られました。自らの身の回りのことだけでなく、

皆で協力しながら掃除をしたり軽作業を行ったり：日々の暮らしの中で、ご利用者同士が他者のできない部分を補い合って生活する姿は、沢山の人が寄り添って暮らす一軒の家であると言えるのではないのでしょうか。

昨年12月22日には、友愛ホームの開設60周年を記念して盛大に祝賀会を開催しました。

当日は、小林理事長の挨拶により開会し、金井園長の乾杯の音頭を合図に参加者全員でご馳走をいただきながら、職員が作成したスライドで友愛ホームの60年を振り返りました。

開設当初はご利用者の多くが着物姿で生活されており、朝の体操の風景も今はない土の園庭で行われているものでした。ご利用者の皆様は、友愛ホームの歴史を振り返りながら、ご自身が歩んできた人生と一緒に思い起こされたのではないのでしょうか。



当日は、半年以上掛けて準備してきた「友愛ホーム60周年記念誌」のお披露目も行いました。表紙の絵はご利用者中村桂子さんにお願ひし、また、インタビューという形で多くのご利用者にご登場いただきました。その他、ご家族、ボランティア等、日頃からお世話になっている大変多くの関係者の方々にご寄稿いただき、ささやかながらも思い出に残る記念誌が発行できたものと思います。

61年目を迎えた友愛ホームは、

過渡期を迎えていると言えます。養護老人ホームへの入所を必要とする生活困窮者は依然多く存在するはずですが、財源は公的予算である措置費で賄われており、それは増額されていない現実があります。また、入所しているご利用者も、年々多くの支援を必要とする状況にシフトしつつあります。

様々な変化と課題がある中で施設運営ではありますが、利用される皆様が「ここが私の家で良かった」と心から思っていただけ

ような友愛ホームであり続けたらと思います。今後とも、皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

社会環境の変化に 対応した施設へ

友愛園

副主任生活支援員 小泉 達也

寒さ厳しいある日の夕食。湯気が上がるおでん鍋から、好みのおでん種を数品選ぶ顔に笑みが浮かぶ。のれんを掛けて屋台ふうにしつらえたおでん鍋を職員が忙しく行き交う。

いつもは静かな食堂も、この日は明るい雰囲気包まれる。

ご利用者の毎日は、午前中は授産時代から続く軽作業に取り組み午後は映画観賞、ゲームなどのレクリエーションや外出して過ごしています。更に初詣、お花見、日帰り旅行などのイベントや四季折々の献立を提供し、日々の暮らしが充実するよう工夫を重ねています。また、地域のボランティアによる先生方にご指導をいただいている茶道、華道、書道及び音楽の各クラブ活動や慶應義塾大学ライチウス会の学生の皆さまと勉強会の交流は生活のアクセントとして好評を得ています。

友愛園は重度授産施設として昭和53年に開所しました。その後、



平成29年初詣

障害者を取り巻く社会構造の変化や自立支援法、総合福祉法(略称)などの変遷を経て、平成24年に生活介護・施設入所支援として指定を受け現在に至っています。近年はご利用者の重度化が進み健康管理の重要性が増すなか、通院や入院の支援と入浴、排泄など日常生活介護に注力しています。

「その人らしく暮らせる」と「多くの人が気持ちよく暮らせる」の両立を目指して、ご利用者及びご家族の協力のもと、職員一同一歩一歩進んで参りますので、これからも温かいご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

ご利用者様らしい人生を

砧介護保険サービス

介護支援専門員 広本 正子

私たち、砧介護保険サービスはご自宅で生活している方々の相談窓口として務めさせていただいており、現在は要介護1～要介護5の認定を受けたご利用者様が自宅で過ごすためのお手伝いをさせていただきます。

ご利用者様から、今までどおりにご過ごすことが難しくなったとき、少し自分の人生に不安を感じるようになったといった声をお聞きます。

何にお困りなのか、これからどのような生活を過ごしていきたいのか、時間をかけてしっかりと話を伺わせていただきます。お困りごとだけではなく、これまで過ごしてきた人生や好きな事などもお聞かせいただくこともありえます。ご相談いただいたお困り事の解決や、できなかったことをできるようにする、この事はとても大切なことなのですが、一番大切



砧介護保険サービススタッフ一同

なのは、ご利用者様らしく過ごしていただけることだと考えています。それにはどのような方法があるのか常に考えていきます。

もし、少しでも話を聞いて欲しいと思いましたが、どんなお話でもかまいません、お気軽に声をかけてください。人生を歩まれるご利用者様が、少しでも充実した日々を自分らしく過ごしていただけるように尽力させていただきます。

生産活動のご紹介

みなとワークアクティ

施設長 神田 市郎

(港区立障害保健福祉センター 参事兼務)

港区立障害保健福祉センターは、浜松町駅から田町駅方向に8分程歩いたところにあります。目の前をJRやモノレールが走っています。

当センターは平成10年度に開設され、港区が運営しておりますが、平成21年度から港区の指定管理制度により、友愛十字会が管理運営をまかされております。

当センターは、生活介護事業、心身障害児通園事業、児童発達支援事業、重症心身障害児通園事業、療育相談、就労継続支援B型事業、地域活動支援センター、自立訓練(機能訓練)、各種相談、緊急一時保護などの事業や、プールや会議室などの貸室事業、入浴サービスの提供など、様々な事業を展開しております。

今回は、センター3階にあります就労継続支援B型事業所「みなとワークアクティ」を紹介させていただきます。

みなとワークアクティは就労継続支援B型事業所です。

一般企業等へ就労することが困難な障害のある人に仕事を提供し生産活動、就労支援、生活支援を通して、自立を支援します。

対象は、18歳以上の障害があり障害福祉サービス受給者証の交付を受けた人で、原則として単独通所が可能で、かつ作業能力があるか、または期待できる人です。

定員は40名です。

生産活動の種目は、製菓(焼き菓子)、受注(箱折り、封入、点字加工等)、公園清掃、販売活動



受注作業風景



製菓作業風景

(被災地施設支援と全国の障害者就労施設の自主製品販売)の4種目です。

焼き菓子はアクティの生産売上高の半分以上を占めており、区内の企業からまとまった注文をいただいたり、大手自動車会社、IT企業本社で出張販売したり人気商品となっています。

現在23名のご利用者が毎日楽しく生産活動に励んでいます。港区民でご利用いただける仲間をお待ちしております。



主力商品の焼き菓子

「スノーボール」

各216円(税込)

(手前左からプレーン、イチゴ、抹茶、ココア、紅茶、キャラメル、クラシック、きなこ)

ご注文は下記電話番号まで
03-5439-8057



minato work acty

みなとワークアクティ
オリジナルキャラクター
「みなのはし」

あゆみ

東京聴覚障害者支援センター

所長 高橋 秀志

事業変遷と名称変更

東京都板橋区志村に施設が開所されたのは昭和40年（一九六五年）4月です。昭和39年（一九六四年）東京で開かれた第18回オリンピックの翌年に開設されました。公設民営第一号と言われ、聴覚・言語障害者更生施設として東京都が設置し、社会福祉法人友愛十字会が受託運営してきました。

当時の施設名は、「東京都ろうあ者更生寮」で平成10年3月までこの名称でした。その後、名称の見直しが行われ、平成10年4月より「東京都聴覚障害者支援センター」となりました。

開設時から、平成22年度（二〇一〇年）の45年間は、東京都から委託及び指定管理を受け行ってきましたが、平成23年（二〇一一年）4月より民間移譲となり、引き続き友愛十字会が経営を行っております。民営化と同時に施設名も「東京聴

覚障害者支援センター」（平成23年4月）として現在に至っております。

各種事業

聴覚障害者の方を中心にした障害者支援施設として、施設入所支援、就労移行支援、自立訓練（生活、機能訓練）、空床型短期入所そして平成27年10月より就労継続支援B型事業を新たに開始。また、市区町村事業として指定特定相談支援事業も担い、多機能事業所として行っております。入所定員は30名。併せて定員10名の通所も行っています。

日々の課題

利用されているのは主に聴覚障害の方々ですが、聴覚障害と併せ心の悩みを抱えている精神障害の方、知的障害の方、また視覚障害のある盲ろうの方もあります。視覚障害のある方には、情報保障を含めマンツーマンの対応も時に必要とされます。職員の肌理細かな対応は必然となっており高齢化と共にこのような状況は年毎に増しております。



東京聴覚障害者支援センター外観

個々のニーズや障害特性に応じたサービスの充実が求められ、支援技術の向上は喫緊の課題です。職員は支援員をはじめ嘱託医師、看護師、事務、調理員など併せて

23名、日々の課題に向かい取り組んでいます。

中長期計画

開設時から平成29年7月で52年になりました。そして大規模な

増改築を行った昭和57年（一九八二年）からは、まもなく35年を迎えます。

東京都から35年を過ぎる建物は建替が必要と言われており、来る平成32年の事業評価審査までに、センター建替えプランを示さなければなりません。場所、内容、資金など与えられている諸課題は大きいものがあります。

平成32年は西暦二〇二〇年、第32回オリンピック・パラリンピックが東京で開催される年です。センターの建替え時期も半世紀前の年廻りに似て不思議な巡り合わせを感じます。

法人はじめ、東京都や板橋区、また関係する皆様の協力を得ながら中長期計画にしっかりと組み込み、大事業の達成に向け職員一丸となり取り組んでいきたいと考えています。



「開かれた施設」を目指して

友愛荘

園長 藤田 康子

昭和49年11月1日に開設して以来、地域の皆様に支えられて43年目を迎えました。

地域との連携を強化し、開かれた施設を目指して、新たに近隣の保育園や市内の障害者就労支援事業所との交流を始めました。

保育園との交流では、運動会とクリスマス会にご招待いただきました。運動会では園児と大玉ころ



納涼祭でゆうあいくん♪とジャンケン勝負！



X'mas会にサンタがやってきた

がしに参加し、クリスマス会では園長がサンタクロースに扮してクリスマスソングを歌ったり、プレゼントを渡したりと楽しいひとときを過ごしました。

障害者就労支援事業所とは、盆踊り大会への招待や商品の販売などから取り組み始めました。今後は定期的な販売や店舗への訪問、行事の交流などを通して交流を深めていく予定です。

また、東京都社会福祉協議会主催の「つながれ ひろがれ 地域の輪 in TOKYO」に参加し、「ゆうあい広場」と称して「高齢者の



調理実演、さてお味は？

栄養講座」を開催しました。そこで紹介された山芋と納豆を混ぜてフライパンで焼くだけのメニューは簡単で栄養価も高く「とてもおいしい」「家でもやってみよう」と大変好評でした。

今後は高齢者だけではなく、子供や主婦を対象とした企画で「ゆうあい広場」を継続して開催し、地域の方と世代を超えた交流の場となる取り組みを行うための準備を進めています。

友愛十字会が運営する施設

施 設 名		所在地	入所	短期 入所	通所	相談	種 別
障害者施設	世田谷更生館	世田谷区			○		就労移行支援事業 就労継続支援(B型)事業
	友愛園		○				施設入所支援 生活介護事業
	友愛デイサービスセンター			○	○		生活介護事業 短期入所
	コーポ友愛		○				身体障害者福祉ホーム
	東京聴覚障害者支援センター	板橋区	○	○	○	○	施設入所支援・短期入所 就労移行支援事業 就労継続支援(B型)事業 自立訓練(機能訓練・生活訓練) 指定特定相談支援事業
	港区立障害保健福祉センター	港 区					指定管理事業
	地域活動支援センター				○	○	指定相談支援・一般相談 専門相談・専門医相談 自立訓練(機能訓練) 機能訓練事業(区単独事業) 入浴サービス・貸出施設 障害者地域自立生活支援事業
	こども療育パオ				○	○	心身障害児通園事業 児童発達支援事業 重症心身障害児通園事業 療育相談
	工房アミ				○		生活介護事業
	レスパイト			○			緊急一時保護事業 レスパイト保護事業 自立生活訓練事業
	みなとワークアクティ				○		就労継続支援(B型)事業
	友愛ホーム	世田谷区	○				養護老人ホーム
	砦ホーム		○	○			介護老人福祉施設(特養) 短期入所
	砦デイサービスセンター				○		介護老人通所施設
	砦介護保険サービス					○	居宅介護保険サービス
	砦あんしんすこやかセンター					○	地域包括支援センター
高齢者施設	友愛荘	町田市	○	○			介護老人福祉施設(特養) 短期入所
書店	友愛書房	千代田区					身体障害者福祉法第22条の売店

【世田谷区】法人本部

〒157-8575 東京都世田谷区砦3-9-11 代表 03-3416-3164

【板橋区】東京聴覚障害者支援センター

〒174-0056 東京都板橋区志村2-19-5 代表 03-3967-0051

【町田市】友愛荘

〒194-0203 東京都町田市図師町989 代表 042-793-7530

【港区】港区立障害保健福祉センター

〒105-0014 東京都港区芝1-8-23 代表 03-5439-2511

【千代田区】友愛書房

〒100-8916 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2 中央合同庁舎第5号館
代表 03-3591-4822(内線3779)

善意のかずかず

次の方々から、利用者及び施設に対しましてご奉仕等を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたことに対して、心より御礼申し上げます。(平成28年2月1日～平成29年1月31日)

奉仕活動

○世田谷更生館

青山 健児

石合 幸雄

伊藤 幸子

大島 公子

金子 伸恵

黒田 真実

小林 健太郎

佐々木 栄子

穴戸 美菜

鍋田 千乃

原岡 美之

樋口 宏子

平岡 佳代

福永 春美

前園 陽子

○友愛園

栗原美和子

高木 和子

成田 信子

箕輪千賀子

森田千賀子

慶應大学

ライチウス会

天理教

北多摩東部支部

○友愛デイ

石井 幸子

久保山由美子

小島 修治

山川 敏江

○友愛ホーム

石渡敬一郎

末木江津子
高安瑠璃子
棚網 純子
中山 康
馬場 武子
早田由貴子
深井真理子
山下 ヤス
山田たき子
米田 恵子
アンサンブル3355
グループたんぽぽ
天理教
北多摩東部支部
日本園芸福祉普及協会
学校法人山野学苑
若竹会

○砧ホーム

石井 公子

石田 淑子

市毛 昌子

遠藤 一俊

大西紀美子

大矢 末子

片橋 町子

岸本 幹子

小畑 あや

斎藤富美子

島 陽子

竹内 律

田島 利雄

館野 佳子

田辺 希子

徳永 珠子

浜 紀子

濱口 郷子

濱津 洋子

前田 静枝

松崎 優佳

弓削 力
国立音楽学院
光寿会
日本赤十字砧分団
藤の会
まほの会

○砧デイ

梅津三千代

大塚 悦代

記内 博高

嶋崎優美子

鈴木 賢一

寿乃田雅子

相馬秀樹・知美

(ホープイベント)

田村 正子

中島 邦夫

向井 忠彦

柳井洋子(たんぽぽ)

○砧あんしん

石井 公子

市毛 義次

清水 校子

杉森 初實

田中 信子

輝 真理子

西多 法子

野崎真喜子

深野木 馨

橋本 福二

間瀬 紘子

○東京聴覚障害者

支援センター

青野美重子

浅川 高文

奥村 睦

鈴木 智代
曾輪 信明
田代 恭子
錦織 幸子
道下恵美子
板橋区
手話サークル
聴覚障害者協会
板橋民踊連盟
成増天神太鼓

○友愛荘

石川 信子

(ハラの会)

石原 信行

泉 カツ子

加藤 喜美子

河端 守子

木城 妙子

斉藤 君子

佐藤 さな江

長尾 喜伊子

野口 喜三子

宮坂 貴三子

武藤 春代

望月 紀子

矢口 里子

山崎 芳男

山本美智子

渡辺喜美代

桜美林幼稚園

グループ・そらまめ

桜台保育園

図師郷土会

芸能文化保存会

図師婦人会

寿々の会

天理教

北多摩東部支部

常盤保育園

ボーイスカウト
町田第三団
山崎友好会

○港区立障害保健

福祉センター

北出 千佳

小林 和子

坂本 美弥

佐藤みなみ

高田 眞子

二木江津子

野田 明子

橋 美里

原 三智子

藤澤 克己

山中 康衣

米田ひさの

若林 昭美

一富士フードサービス(株)

東京浜松町

ライオンズクラブ

(有)ノバック

プルデンシャル

生命保険(株)

港区手話サークル

麦の会

港区民生委員・児童委員

寄付金

○友愛十字会

相原トミ子

秋山 隆子

秋山由美子

浅山 恵子

石井アサ子

石井 厚子

石井 公子

遠藤 修

大島 弘之
貝塚 康子
川上 敬子
鈴木 忠敬
鈴木 清美
高橋美紀子
塚原ヤエ子
内藤 壽昭
長島日出男
濱口 武
広瀬 鶴美
松永 瑞枝
松原 利枝
山根 竹夫
(新井電気工業所
インドレストラン
コルカタ

大蔵住宅自治会

(有)大蔵自動車商会

大蔵東部町会

(株)カインドサービス

柏・絆の会

関東ボウリング場協会

砧総合支所

法人格砧町自治会

砧町会

砧まちづくりセンター

ケアサポート百花

ココプラント(株)

J A 東京中央

千歳地区女性部

昭和女子大学

中高部生徒会

砂井電気管理事務所

成城消防団第5分団

世田谷区役所

世田谷区

I K K 福祉協会

世田谷区立砧工房

〈次頁へ続く〉

〈前頁より〉

世田谷区
身体障害者福祉協会
全国建築物
飲料水管理協会
TMC通り商店街
日赤奉仕団 砦分団
NPO法人
はあと世田谷
(株)福祉施設共済会
ミニディきぬた
(株)メモリード東京
山野小学校
山野小学校PTA
リビングストアー
タカハシ
レイアロハ
フラスタジオ
和響太鼓
○友愛ホーム
上井 正次
柳田とみ子
○東京聴覚障害者
支援センター
糟谷 昭雄
平出 良子
志村城山町会
○友愛荘
友愛荘家族会
鈴木サヨ子
八木スイ子
矢沢 秀子
山崎 芳男
ジェムコ
図師町内会
忠生四丁目町内会
会長小林哲雄
忠生忠霊地区自治会
根岸こなや踊り保存会
理容ミッキー

寄付物品

○友愛十字会

柳田 源三
朝日新聞サービス
アンカーASA大蔵
(南)カインドサービス
国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
さわやか信用金庫
TMC通り商店街
読売センター 砦

○友愛ホーム

砦教会 教会学校
東京善意銀行
日本たばこ産業(株)
若竹会

○砦ディ

サービスセンター

小川 陽子
小澤ふみ枝
梶 忍
清水 和子
宮崎 任子

○東京聴覚障害者 支援センター

浅川 高文
佐藤美智子

○友愛荘

鈴木サヨ子
村野 愛子
横田 義
三家寿会
会長笠原芳子
山崎第2住宅
管理組合エイトクラブ

○港区立障害保健 福祉センター

(株)永谷園
ホールディングス

職員異動

(平成28年4月1日～
平成29年2月28日)

○役員

就任 参与(非常勤) 墨野倉 克則

○採用

世田谷更生館
施設長 村上 正裕

友愛園
施設長 江原 徳至

みなとワークアクテイ
施設長 神田 市郎

○併任

法人本部事務局
総務部長 江原 徳至

港区立障害保健福祉センター
参事 神田 市郎

○配置換え

友愛荘
施設長 藤田 康子

港区立障害保健福祉センター
センター長 田城 利明

○退任

法人本部事務局
経理部長 新垣 洋

○退職

港区立障害保健福祉センター
センター長 墨野倉 克則



編集後記

「機関誌ゆうあい」は、今年度より編集委員会を組織して発刊することになり、本第44号はその記念すべき一歩となりました。編集委員会は、金井常務理事を委員長とし、法人拠点地区から限なく委員を募り、8名でスタートしました。手にされた方々に法人への関心を高めていただける機関誌となることが出来ますよう、また活躍を期待していただける法人で在り続けることが出来ますよう、一同努力して参る所存であります。これからも社会福祉法人友愛十字会を、そして「機関誌ゆうあい」をよろしくお願いいたします。

ゆうあい編集委員会 副委員長

砦ホーム

介護部長 鈴木 健太

ゆうあい 第四十四号

平成二十九年三月三十一日

発行 社会福祉法人 友愛十字会
発行人 金井 博
所在地 東京都世田谷区
砦三丁目九番十一号

電話(〇三三)三四一六・三二六四